



私たち人間は神によって「神のかたち」に造られたものであると、聖書は教えています。私たちは、神によって「あなたは、わたしが特別にわたしに似せて創造したものだ。あなたがた人間こそが、わたしの創造したこの世界をわたしに代わって治め、わたしの栄光を表す唯一の『神のかたち』だ」と、そう言われる存在であったのです。しかし、神のことばを拒んだ時、人間の「神のかたち」は損なわれてしまいました。

① 「神のかたち」としての姿を損なわないための戒め

“神である主は東の方のエデンに園を設け、そこにご自分が形造った人を置かれた。神である主は、その土地に、見るからに好ましく、食べるのに良いすべての木を、そして、園の中央にいのちの木を、また善悪の知識の木を生えさせた。” 2:8-9

“神である主は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」” 2:16-17

② 神に代わって善悪を決めるようになった人間

“蛇は女に言った。「園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか。」女は蛇に言った。「私たちは園の木の實を食べてもよいのです。しかし、園の中央にある木の實については、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と神は仰せられました。」” 3:1-2

“すると、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神のようになって善悪を知る者となることを、神は知っているのです。」” 3:4-5

③ 本来の姿を失った人間の姿

“そよ風の吹くころ、彼らは、神である主が園を歩き回られる音を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した。” 3:8

“人は言った。「私のそばにいるようにとあなたが与えてくださったこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」” 3:12

<考えてみましょう>

- 聖書における「罪」という言葉の意味は、「創造の目的から外れること」であることを学びました。この言葉の意味から、あなたの持っている罪意識との違いについて考えてみましょう。